

10月号



ハニ養だより



青森県立八戸第二養護学校

平成30年9月28日



校長だより

校長 上澤 司

10月10日は、「目の愛護デー」です。数字の10を横に二つ並べると、ちょうど目のように見えることから、そう呼ばれているそうです。テレビやゲーム、ケータイにパソコンなど、現代社会は目を酷使する要素に溢れています。意識的に目のケアを心がけ、大切にしましょう。

今回は目についての話です。皆さんは、テレビタレントの小堺一機さんをご存じですか？小堺さんは、「色弱」という障害があります。そのことを告白した本人のエッセーの中にこんな記述があります。

「中学2年生のとき、僕は夢を失いました。絵を描くことが大好きで、工芸高校に進み、将来はデザインなどの仕事をしたいと考えていたのですが、赤緑色弱であることがわかったのです。当時、色弱者には受験資格がありませんでした。あまりにもショックが大きく、抜け殻のようになってしまいました。そうした日々が続き、一ヶ月が過ぎようとした頃、いつものように食卓でお茶を飲んでいた親父が、ふと切り出しました。『お前、色弱なんだって？』『うん』」

進路が絶望的になって落ち込んでいる自分の子どもに、この後、皆さんだったら何と言葉をかけますか？「大丈夫だよ」「気にするなよ」「元気出せよ」でしょうか？

小堺さんのお父さんは、「いいなあ、——人と違う色が見られて」と言葉をかけたそうです。小堺さんはその時の気持ちをこう綴っています。

「この言葉を聞いた瞬間、払いきれなかった心の雲間に、さっと太陽の光が差し込んだのです。そうか、自分だけに見えている色があるんだ。人とは違うかもしれないけれど、それは悲しんだり、悔しがらるものじゃない・・・」と。

小堺さんのお父さんのように、本当に優しい気持ちがあれば、ありきたりな言葉ではなく、全く違う言葉が出てくるものなんだなあと思いました。その人を想い、このような励ましの言葉をかけられる、本当の優しさをもつ人になりたいものです。

